

ノブキ属の分布と分化 (前川文夫) Fumio MAEKAWA: Differentiation of *Adenocaulon* (Compositae)

ノブキ属は現在 4 種知られており、その分布は下記のように不連続である。

1. *A. lyratum* Blake 中米ガテマラ。
2. *A. chilense* Lessing 南米チリ。
3. *A. himalaicum* Edgeworth 東亜ヒマラヤから日本まで。
4. *A. bicolor* Hooker 北米西部からミンガン辺まで。

この中 1 から 3 までは私のいう古赤道に沿う分布をしているとみられ、いわゆるドクウツギ型分布の残欠である。ノブキは 3 そのものに当てられたり、3 の変種になったりする一方 4 の変種にも扱われた。このことは 3 と 4 とが日本のノブキを中介して、しかし類似性が強く分布の不連続性も強ければかりか、形質の類似性も強いことをよく示しており、その点で 3 と 4 とは一丸となって 1 および 2 と対立するものであろう。これは

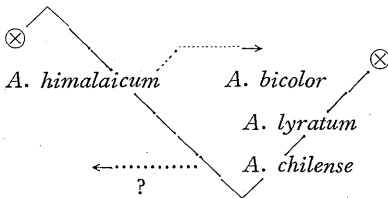


Fig. 1. Schematic map of distribution in *Adenocaulon*. Heavy line: Distribution along palaeo-equator (primary distribution and differentiation) Broken line: Circumpolar distribution (secondary distrib. and differ.)

一つの暗示を与える。それは古赤道に沿う原始分布のあとで現在のような赤道位置に対応した気候帯の位置のほぼ確立したときになって、原始赤道に沿った分布帯の内の今の北半球に入った部分から北太平洋をめぐっての東西方向への二次的な分布が起り、それが古赤道に沿った分布よりもはるかに新しいために種の分化が相対的に低く、従って分類上変種や同種の扱いが決定をしにくい程度にまだとどまっていることを示すものであって、いわゆる周極要素なるものの展開時にそれは当

たるであろう。同じことは南半球にも当然予期できることであり、また、南北両半球でほぼ同時期に平行して東西分布が起ればいわゆる二極分布もまた甚だ明快に解説ができるのである。何等かの理由でノブキでは北半球でのみ東西分布が二次的に起ったものであって、これは二極分布こそ本来の形式の分布である。周極要素の分布はそれの一部であると考えたい。

Résumé In the distribution of *Adenocaulon*, we can find two kinds of distribution type. The one is demonstrated with *A. lyratum* (Guatemala), *A. chilense* (Chile) and *A. himalaicum* (Himalaya-Japan) and quite similar to *Coriaria*-type distribution, which coincide with the palaeo-equator. The other one is shown by *A. himalaicum-bicolor* complex and clearly later than the former. If the latter distribution might have occurred parallel in both hemispheres, we should have typical bipolar distribution. So-called bipolar distribution (*Empetrum*, *Euphrasia*, etc.), can be interplated as just above mentioned.

(東京大学理学部植物学教室)